



木曾川水系導水路計画についての公開討論会で市民の意見を聞く河村市長ら＝川口武博撮影

導水路問題で討論会

「総選挙後に判断」

名古屋市の徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の木曾川水系連絡導水路事業②からの撤退を検討している問題で、市の公開討論会が2日、市公館で開かれ、参加した専門家らが賛成、反対の立

場から活発に意見を述べた。討論会後、河村たかし市長は総選挙後に市として最終判断する考えを明らかにした。

討論会ではまず、市上下水道局の担当者が事業の概要を説明。続いて、賛成、反対各2人の大学教授が水需要や財政負担などの観点から意見を述べた。賛成派は「気候変動の影響で今世紀末には大規模な洪水が起る可能性があり、導水路は必要」と強調。一方、反対派は「市の水需要予測は過大。異常洪水時には、ダムの水自体も枯れるので、導水路は意味がない」と指摘した。約7倍の応募者から選ばれた市民ら約100人も討論に参加。旧徳山村住民の男性は「徳山ダムには50年

間振り回され、現在も生活再建に苦しんでいる。古里が水没した住民のことを考え、前向きに事業を検討してほしい」と話した。

河村市長は「活発な意見が出て良かった。導水路事業の最終的判断は国土交通大臣がするので、（総選挙後の）新政権のあり方が重要になる。市としての判断は選挙後」と語った。

河村流

② 木曾川水系連絡導水路事業 岐阜県揖斐川町の徳山ダムの水を、愛知県と名古屋市の都市用水や、木曾、長良川の渇水時の流量維持などに使うため、導水管を地下に埋設する。2015年度完成予定。総事業費約890億円は国と愛知、岐阜、三重県と名古屋市が負担する。